

Monto Kaj Neĝo
Monata Organo de Monta kaj Neĝa Clubo.

山 と 雪

第 五 號



札幌 山と雪の會 發行

昭和六年二月發行

第五號 目次



瑞西山岳會の登山小屋 (承前)

グスタフ・クルツク著
山崎春雄譯

〔一〕

スキージャムピングの練習法と複合競技の要領

村本金彌

〔二〕

北海道に於ける普通の雪崩に就て

宇都宮高

〔三〕

獨逸に於けるアマチュアスキー

酒井隆吉

〔四五〕

雜 錄

▲寄贈並新著圖書雜誌

寫 眞

▲旭 岳

佐々保雄

圖 版

Vereinshütte

Vereinshütte practicum Grubhütten

Section nro S. A. C. 1980 M. II. M.

Medelschütte

Auf Fuorola de lavaz Medels Grubhütten

Section Vto S. A. C. 2540 M. II. M.



旭 岳

佐々保雄



瑞西山岳會の登山小屋

(承前)

グスターフ・クルツク 著
山崎春雄 譯

四、フェライナヒユツテ

Die Vereina-Hütte

im Vereinsgrund, am Eingang des Val Venela, Graubünden.

位置、到達路及び登攀

フェライナヒユツテはフェライナアルプの中央、フェルネラ及びイエリバハの合流點なる高地の上に建てられ、海拔一
九八〇米、此地點はもとセクチオン・レーチアの登山小屋のありたる場所であるが、此小屋は一八九一年九二年の冬に雪
崩の爲に破壊せられた。

クロステルスより車道により小屋まで約三時間半にて到達することが出来る。

小屋よりの登攀には、フリユエラバスとフェライナの間の山頂、東はシルヴレッタ群南部の山々、及びウンテルエンガ
デンへの多くの峠越えが算えられる。

飲料水は小屋の附近に得られる。

敷地

フェライナヒユツテの敷地はクロステルス村より公式に小屋建設の爲に譲渡を受け、同時に飲料水利権及び通路権も公文により保障せらるゝことゝなつた。

設計、構造及び工事の施行

フェライナヒユツテは木骨二階建の小屋にして、内外壁は羽目板張りとなり更に外壁面は桎葺とし屋根も桎葺である。東向きの入口は二重の扉を有し、居間兼炊事室は南に面して居る。階下の北側は戸締りをなし得る六人分の寢床室として區劃せられ、特に婦人用として先づ使用さるゝことゝなつて居る。居間の一隅より、階段により小屋床下北東隅を占むる地下室に降る。本ヒユツテは最初より飲食物販賣の計畫ありたる爲め、地下室の必要が生じたのである。其上部の階段は階上に導き、其所には開放せる七人分の寢床と戸締りの出来る十人分の寢室とが設けられてある。小屋の間取及び設計は巧みに考案され、設備仕上げは素朴に施されてある。

フェライナヒユツテの設計及び工事監督者はマックス・グイエルである。一八九五年八月四日約七十人の招待者の來會の下に献堂式が執行せられた。

建築費

準備費	一〇三フラン
建築費	五、〇二八
便所費	一四四
雜費	九四
小計	五、三六九
設備	一、三三五

獻 堂 式

二一三

道路及び標識

九九九

修 繕

一四九

總 計

八、〇六四フラン

フェライナヒユツテの譲渡

フェライナヒユツテは最初より飲食物の提供をなした。放牧地の中央に容易に到達し得る地點に建てられたる此の小屋は、雑多なる宿泊者の訪問を受くるのみならず、狩獵者に取て理想的の根據地であつた。更に車道の完成と共に其状態はますます悪化し、小屋の監視はウト支部の管理者に對し、年々困難の度を増すに至つた。かくしてヒユツテを附近山地の支部に譲渡することにより遠隔のウト支部がなすよりも、小屋の管理がより良く行はるゝならんとの考案が遂に實現するに至つた。

一九一八年八月、中央委員會より承認せられたる契約により、ウト支部はゼクチオン・プレツチガウに對しフェライナヒユツテを無償にて譲渡し、後者は契約締結の日より小屋に關するすべての權利義務を繼承したのである。

プレツチガウ支部は本契約により、フェライナヒユツテをS・A・Cの小屋規約に従ひ、又中央委員會の指定に従つて管理し、維持するの義務がある。ウト支部の同意なくしてプレツチガウ支部は、フェライナヒユツテを賣却することを得ず、又如何なる形式に於ても之を第三者に譲渡することを得ない。又S・A・Cの登山小屋としての目的以外に小屋を使用することを得ない。若し賣買によりフェライナヒユツテ及び其敷地の諸權利が第三者の手に移る場合には、プレツチガウ支部は、ウト支部に對し小屋建築費の全部を賠償する義務を負ふ。これ等を約束中に抱括したるは當時専ら小屋の所在地なるフェライナルプが、近き將來に於て堰堤湖の水底に没するといふ風評ありたるによるのである。

五、メデルセルヒユツテ

Die Medelser-Hütte.

auf der Fuorola de Lavaz, Melets, Grundinden.

位置、到達路及び登攀

メデルセルヒユツテはフォルクラ・デ・ラヴァーツ（ラヴァーツヨホ）の山上、二五四〇米の點に建てらる。此の峠はライン上流南側の横谷なるゾムヴィツクス及びメデルス谷の中間である。デイゼンチスに下車し、ルクマニエル街道の第一驛クラグリアより左折してアルプ・ブラッタに入る。クラグリア、ヒユツテ間約四時間。或はゾムヴィツクス谷よりテニガーバードを経て達することが出来る。

ヒユツテはピッツ・メデルを主峰とする多くの愉快なる展望頂の登攀に用ゐらる。

飲料水はメデルセルヒユツテにはあまり恵まれないのであつて、最近の水場まで二十分も降らねばならぬ。水道を敷設せんとを試みも今迄は見込みがないのである。

敷地

一九〇九年、ウト支部とクラグリア・メデルス村との間に締結したる契約により、支部はヒユツテの周圍二十メートルを含む敷地の無償譲渡を得、同時に通路權及び飲料水利權をも確保せられたのである。又同村は小屋使用の薪材伐採の爲に、小屋附近の村有林の一部を特に指定した。

設計、構造及び工事の施行

メデルセルヒユツテの設計者はマックス・グイエルである。設計の根本は陸屋根の小屋の二單位を相接して建てたものである。最初のグイエルの設計にては、一單位の大きさ内徑にて間口四メートル、奥行七メートル半のもの二個及び間口四メートル半、奥行七メートル半のものの一個、合計三單位より成り、敷地の傾斜強きため、各個各々一メートル四の高さ

の差を保ちて階段狀に配列されるのである。グイエルの意見により、先づ小なる單位の一個は將來の擴張の際に建増することとし、現在の小屋即ち四メートル及び四メートル半の間口を有する二單位の建設を見るに至つたのである。小屋の入口は各單位の間口の中央に在る。入口に近き小屋の各半部は居間及び炊事場に用ゐられ、各々二個の卓子と五人分づゝの座席が配當せられ、小屋の半部には各十人分の寢床を設けられてある。大なる方の小屋の寢室は二部に隔離され、四人分の婦人寢床と六人分の男子室とに區分さる。

一九〇九年の代表委員會は、ヒユツテの計畫を承認し、ウト支部に對し五〇〇〇フランの建築補助金を交附することを決定した。同年の冬期建築材の伐採をなし、一九一〇年七月には既に小屋の一單位の竣工を見るに至つた。諸附帯工及び設備の多くは實費及び寄附により、著しき經費の輕減を見ることが出來た。献堂式は同年十月九日に執行された。其の費用より察するに、式の感興の波は相當高いものがあつたらしく思はれる。

モデルセルヒユツテの設計は、獨創的の形式を有し、登山小屋計畫の非常に巧みなる解決とすべきものである。小屋の各單位は扉によりて連絡せられ、各々十人宛の登山者に對し愉快なる宿泊所として役立つのである。

小屋の基礎は石積、小屋其物は木骨にして屋根は平坦なるセメント陸屋根である。壁は内壁に板張りをを用ゐ、外部は羽目板の上を屋根葺用の厚き建築紙にて張り、更に其上に防腐劑に浸漬したる柁の被覆をなした。

尙構造の補強に向つては圖に示さるゝ如く、筋造材を使用し、基礎と強固に接合し小屋の堅牢を助けて居る。

小屋の構造及び工事に就ては、最初より細心の注意により丁寧に行されたのであるが、遺憾にも木骨構造の缺點は遂に之を除くことを得なかつた。數年を出でざるに小屋の四壁は次第に隙を生じ、多少風強き時には賊風の侵入を免る能はざるに至つた。

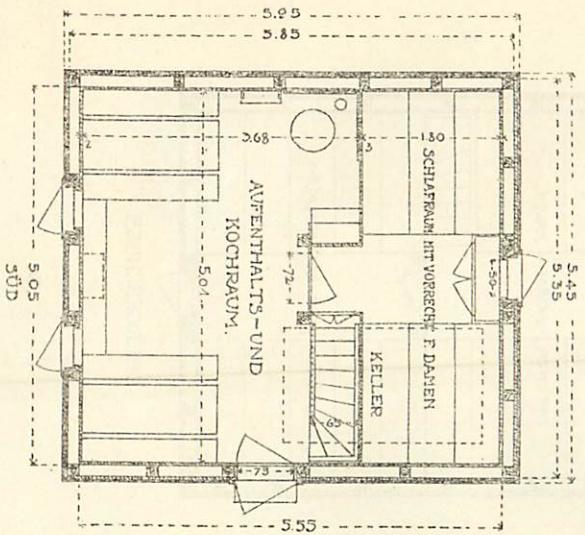
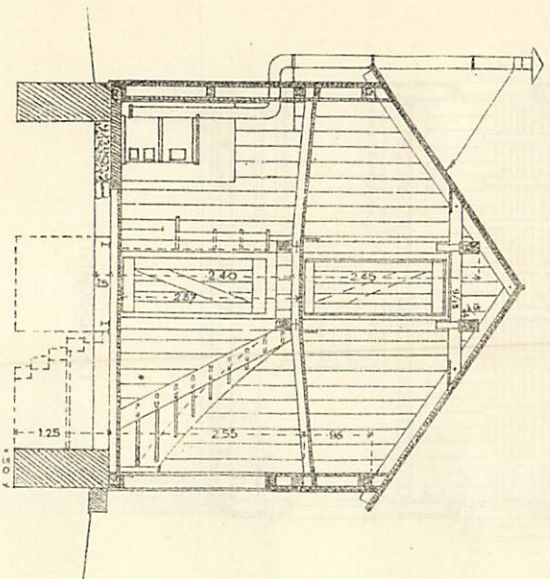
建 築 費

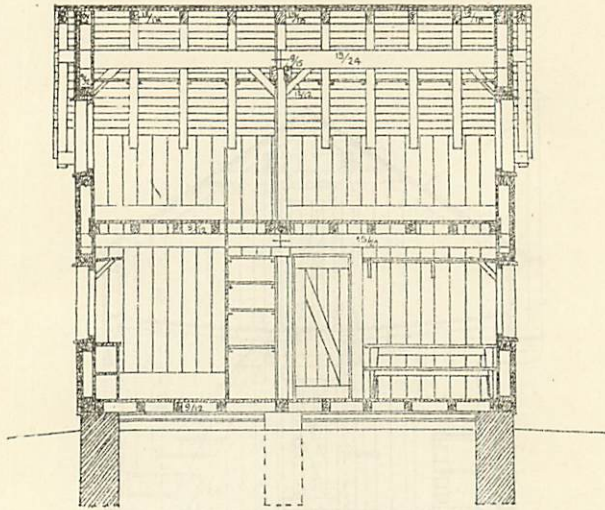
準 備 費

四七六フラン

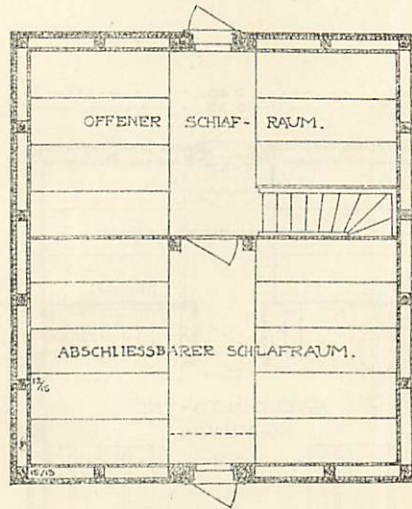
總	修	標	設	建	合	獻	道	設	小	設	雜	運	便	欄	補	指	金	大	石
計	繕	議	備	築	計	堂	路	圖	計	圖	費	搬	所	杆	強	物	物	工	工
					追	式	及	及	督	及									
					加	識	標	監											
					經	識	識	督											
					費	式	識	督											
						式	識	督											
一五、九八四	七一	二八	四三一	三四九		一五、一〇四	一、二二六	四三	一二、〇六〇	一、二九七	四一	四、五七一	一二九	七九	一五三	一、〇五三	二五六	三、八〇三	一、六八三

VEREINAHÜTTE
 VEREIN ALP PRÁTIĞAU GRAUBÜNDEN
 SEKTION UTO · S.A.C. 1980 M. Ú. M.
 1/8 TISCH = v 23 PRITSCHENPLÄTZE.





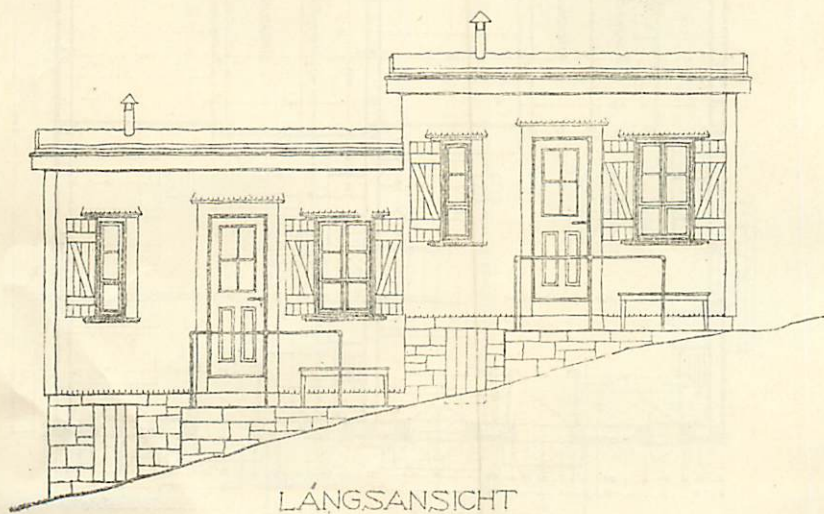
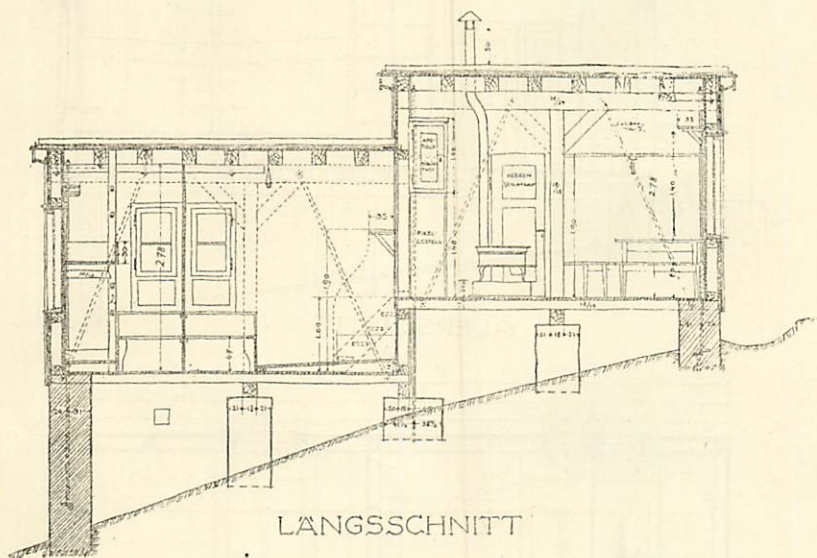
L'ANGSSCHNITT

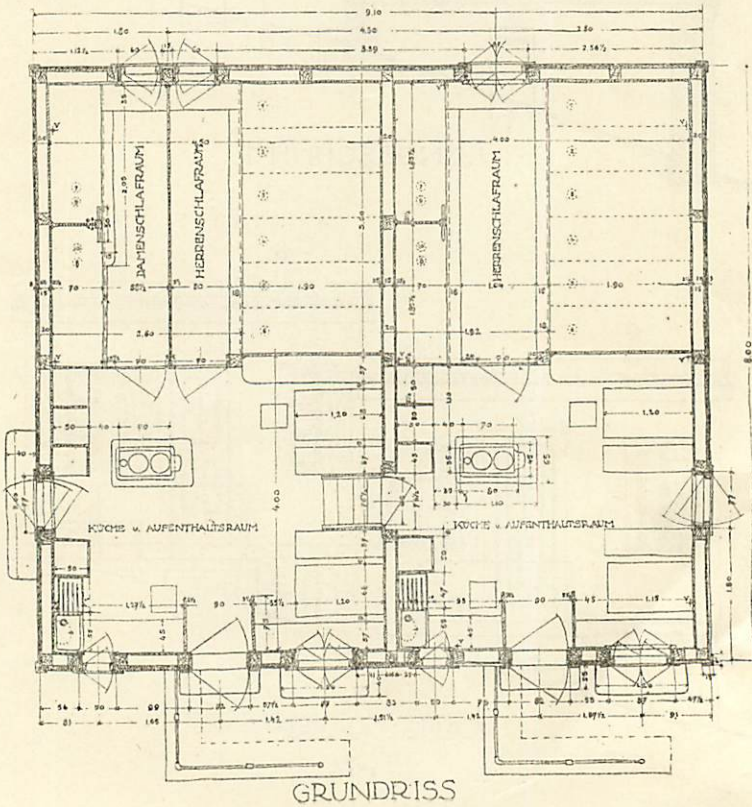
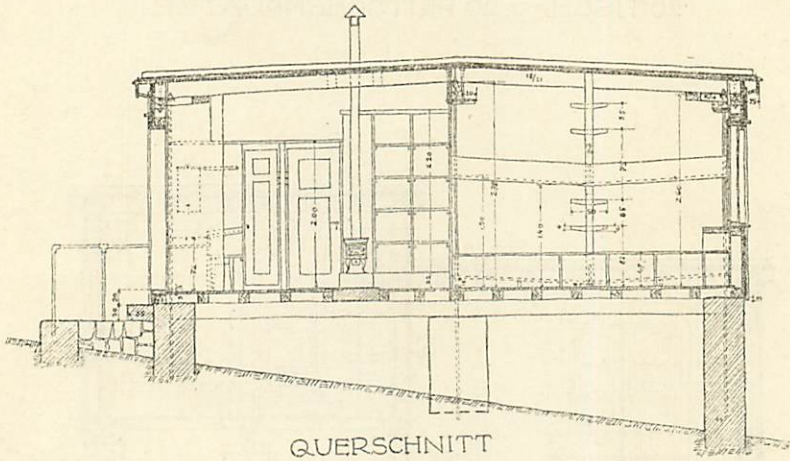
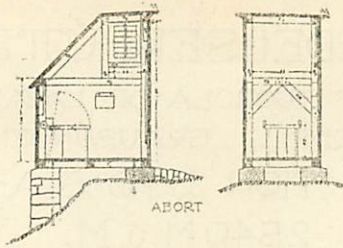


OBERGESCHOSS

MEDELSERHÜTTE
AUF FUORCLA DE LAVAZ
MEDELS GRAUBÜNDEN.
SEKTION UTO·S·A·C·
2540 M. ü. M.

20 TISCH- u. 20 PRITSCHENPLÄTZE.





スキー・ジャムピングの練習法と

複合競技の要領

村 本 金 彌

(I) ジャムピングの練習法

今度スキー・ジャムピングの練習法と複合競技の要領に就いて皆様述べる事になつておりますが私として未だ完全の域に達せず如何にしたならば一流のすべる迄に成れるだらうかと常に苦しみぬいてる者であります。

世界の一流とまでは参りませんが兎に角今日の如き盛大の位置にまで導いてくださった私共の先人の尊い経験や仲間絶えざる努力の賜をば参考といたしまして愚見を述べさせていただきます。

何事によらず目的に向つて突進する場合に常に目ざすところは榮えある優勝であり、又其の完全を期する事であり

ますが其の優勝の地位に到着し其の完璧の状態に達するまでには不斷の努力を正しい訓練に注ぐ事が必要であります特にジャムピングに於いて然りで地上にあるを原則とする人間が例へ僅かな秒数の間でも地上を離れて空中飛躍を試みるのですから之の練習に當を得てるか得てゐないかは完全を期する上に重大な意義を持つものであります。

先づ練習に先だちどんなに上手に行ふ人でも其のグラウンドとも云ふ可きシャンツエが不完全であつたならば練習に大なる支障を來し延ては危険を伴ふものですからシャンツエの撰擇設備はおろそかに出来ないものであります、特に練習時にあつては無駄な勞力を省き恐怖の觀念の湧いて來ない様に愉快に練習が出来る方法を選ばなければならぬ

いと思ひます。それで實際今迄、私共がやつてゐたのです
が雪がつもると試合をやる大きなシャンツェへ行き其の大
なる飛躍距離に慣れると云ふ誤まつた考から、三週間も前
から練習し遂には疲勞し、疲勞すれば従つて恐怖心が増し
折角の仕合に不覺を取ると云ふ様な傾向があつたと思ひま
す。實際眞に泥繩式の練習ならばそれでもよいのですが、
ジャムピングに精進しもつと伸びて行かうと云ふ人々にと
つては、練習初期から大きなジャムプ臺で練習する事は避
けなければならぬと思ひます。

シーズンが始まつて、すぐ試合のある現在の狀況では無
理かと思ひますが、私の考へとしては練習最初はそこらの
山、札幌にあつては丁度手稻山位へ行つて新雪でスキーテ
クニックを練習し、それがすんでから愈々飛び始める位に
したいと思ひます。これは私の経験ですが、山へ行つて種
々な術を樂にこなせるシーズンはジャムプに於いても、成
績がよかつた様に考へられます。又實際に外國の本を見ま
してもジャムプの練習に際し山へ行つてスキーテクニック
を練習すると云ふ事はスケジュールの中でも重要な役割を
務めてをります。

さて、どれ位の程度のシャンツェから始めたらいいかと
申しますれば、高さ約六〇mで一五米位飛べる様な臺を造
りまして始めるのが一番適當の様に思はれます。そして斜
面の選定も着陸斜面にとつて約二五度位の傾斜をもつなら
充分です。こゝに御注意したのはあまり大きな斜面に造
らない事で、これは小さい臺を數多く飛ぶ關係上大きな斜
面の半にほつんと造つたのでは、非常な時間と勞力の損失
になりますので、所謂小じんまりとした臺を造りになる
事をお勧め致します。それから設備と申しましたも大した
ものはいりませんが、之れ丈は是非行つてもらひたいもの
です。それは毎日シャンツェへ行つた時に一度は必ず着陸
斜面とアプローチの走路、シャンツェの端を足でふで見
て、其の硬軟不備の點を檢査し、特に新雪の降つた場合等
は着陸斜面は練習者同志で手をつなぎ合ひ靴で踏みかため
それからスキーをはいて上下にステップを切つて凹凸をな
らします。このスキーで斜面にステップを切る事は大切な
事で着陸の際の横すべりを防ぐよい手段であり、安心して
飛べる様な氣がいたします。よくスコップや何にかでたゞ
いたまゝで一度もステップを切らずに飛ぶ人がありますが

之は御互ひにおやめになつた方がよいと思ひます。何故若陸斜面を硬く踏むかと申しますと、轉倒の際足の捻挫とかスキーの破損、従つて危険豫防のためであります、素人考へと申すと失禮かも知れませが、軟い雪の積つた所に落ちたならふんわりしてよいではないかとお考へになるだらうと思ひますが、之は大變な誤りで、轉倒した場合の捻挫やスキーの破損は軟かい雪の斜面にスキーがひつかゝり、或ひはささつたりして起るものですから、この原因を除去したならば、即ち堅くふんでおいたなら、ひつかかつたりささつたりする餘地がありません近頃では捻挫したりスキーを折つたりする事はこれをやり出してから大變少なくなつて來ました。それからシャベルとスキーが必要です。轉んで大きな穴をあけますとそれを埋めたり、又アブローチの横すべりやシャンツエの端の横滑を直す必要上、之の二つ丈は是非必要です。よく小さな臺だと馬鹿にして随分荒れてゐるのを見ますが、之も御互ひに仲間同志が骨を借しまず直して飛ぶべきだと思ひます。

さてジャムブの練習にあたり人に見られては恥づかしいといつて、誰もゐない所で一人でやつてる人があります

ジャムブにあつてはこんな事は絶対に間違つた考へです。正しい多數の批判があつてこそ、その完全を期し得るものでありまして、ほんとうに熱心な研究者同志四五名でもつて、練習するのが一番能率の擧るやり方です。そして御互前日に明日の研究事項を頭の中に書いてシャンツエに集まり、各自の正しい主觀でもつて他人のジャンプを觀察し、第三者の白紙な頭を以つて御互忠告し合ふのが一番良い方法と思ひます。

さて愈練習にとりかゝります。スタートに立ちます。この時は特に試合になりますと緊張のあまり遂堅くなり過ぎたり、又取越苦勞をして種々な考を頭に浮べるものですが之はジャムブを行ふにあたつては絶対禁物です、それで練習の時から此の點に就いてよく注意し、スタートに立つたならば自分が今日迄考へてゐた理想の飛方を頭の中にびつたりと書き出したなら、後はこうしたら轉びはしないか、あゝしたら不味くはないかと云ふ様な邪念は拂ひ清め、所謂明止水の境地に心を置いて、朗かにスタートを切らなければなりません。然し餘り氣にせずに緊張をかけたスタートをすると云ふ事は、進歩を防げると同時に危険を伴ふ

ものです。殊に身體の疲勞してゐる時はとかく緊張が欠けやすいものですから御注意を願ひます。

それから次は靴と締具との關係、スキーとの適否の工合を良く調べ、終つたならば體を樂にして出發の合圖を待つてをります。合圖が出たら、まごまごせずに、勇ましくスタートを切ります。試合の場合のシャンツェは大抵底スタート臺から廣くとられて、平な所から滑り出す様になつてをりますから樂ですが、練習臺の様に斜面の途中からスタートする場合は先づ、最初に利足を出して今右足を利足としますと、右足を自分の滑り出す方向、即ちシャンツェの端に直角になる様に斜面に適合させ、それと同時にこの足に思ひ切つて體重の推移をして、體重の抜けた左足をひきつけて出發する方法が一番よいと思ひます。

滑り出したら直ちに屈身姿勢になります。之は重心を低くして體の安定をはかるのと來る可きサツツに對する準備姿勢ですから、決しておろそかに出來ないものであります。

之の時の注意はいつなんどきでも飛出せる、即ち常に重心を滑降に伴つて前へ前へと移して行く氣持が一番大切であります。

其他、スキーは良く揃へ兩スキーに體重を平均に置き膝は必ず密着させよく締めます。之が出來ないと膝がゆるみ滑走が不安定になつたり、正しいサツツを爲す場合に、不平均な蹴り方をする様になり其の結果、全ジャムブを不成功に終らせる様になりますから、充分にしめられた方がよろしいです。

人によつてまちまちですが手は前にだらりと下げるよりは指先に力を入れて前方に出し、兩肘を軽く締めて自分の上體を軽く抱きしめ、丁度兩腕でつくつた窓からシャンツェの端を注視するのがよいと思つてをります。

愈シャンツェの端が近づくに従つて重心を安定に置き、今迄より以上に前へ推移して行き、丁度スキーの先端がシャンツェの端に來たと思つた瞬間に思ひ切り力強く、屈身の勢態から前上方に身體を伸展させます、恐らくジャムブの中でこの瞬間が一番難かしく、そして亦全ジャムブの運命を決するといつてもよい位です。このサツツを如何にして行ふかを具體的に述べる事は非常に困難でありまして、各個人此の間の氣持ち、骨などと云ふ事を尊重し、そして御互に直し合はなければなりません。とにかくこの瞬間

の動作に於いて、一番必要とする點は力強い思ひ切つた踏切りと、それに伴つて身體を前にかけすぎる位に前方に倒す様にします。

何故こうしなければならぬか、それは安全な着陸とより良く飛ぶ爲めにはフライトに於いて充分なる前傾姿勢を必要とするものであります。アブローチを猛烈な速力で滑走して來るのですから、シャンツエの端で充分前傾をとる爲めには力のない踏切では到底望めないのです、そこで力強い踏切と云ふ事が必要になつて來るのです。

今迄のジャンプは立つ爲めにはそつと踏切つて行けば良い様に考へてをりましたが、之は大なる誤まりで、安全な着陸とより多い飛距離を得んとしたならばこの力強い踏切と大膽なる前傾によつて始めて成されるものであります。

この練習はどうして行ふかと云ひますと、私共の今迄行つて居た方法はアブローチの距離を人より短くとり先のゆるやかに上つた六〇cm位のシャンツエで之を行ひます。先のゆるやかに上つたシャンツエは離れる瞬間に足の裏に幾分の抵抗を感じます、之によつて逆に、シャンツエで踏み切る要領を覺えて行く様にします。但しシャンツエの端の

上り方も急にしやくれたのでは何んにもなりませんから、心持上つたものを選びます。そしてこれになれたなら水平のシャンツエや先の少し下つたもので要領を會得します。

私がやらうとしてゐる踏切は短距離競泳におこなはれるスタートの蹴り方飛び込み方の様な氣持でやつてをります。一にとつては非常によいと思ひます。

この次はフライトに移りますが、このフライトの姿勢の全般はサツツに依つて決まるもので、正しい均等サツツをしたならば必ず其のフライトも完全に近く行くものです。

そしてこの時の注意は常に前へ前へ重心を移して行く様に、前傾をとりスキーが不揃にならぬ様にしなければなりません。そして素なほに兩腕は伸ばして指先に力を入れバランスを保つ爲めに、体の前方で圓を畫く様に應揚に廻轉する事です。小さく、くるくる廻したり、もがいたりするのは、前傾のたりない事と、体の不平均を表はしてゐるものです。

このフライトに於いて一番技術の要するものはフライトの後半です。この身体の保持が悪いと折角得た、前傾を失ひ不安定な着陸をなし、延びる距離も途中で失なつてしまふ

様になります。この後半にかゝりますと着陸斜面が浮上つて来る様になります、この時には上つてくる斜面に對して身体を倒して行く様な心持が必要です。

今度はランデウングに移りますが、丁度浮き上つた斜面が顔にぶつかりそうになつた時が丁度着陸になつてをりますから、其の前に一層足を後方に引く様にして、体を前にかけついたらすぐテレマーク姿勢にうつります。

これもしなやかに移つたのでは前にのめつたり、つぶされたりしますから、兩肘をもつて上体をしめて抱き込む様にし、同時に膝の關節もしめつける様にします、こうすると大抵のショックに耐へ得られ不安定にならないものです。

之の練習はやはり十四米のジャンツエで着陸斜面を割合ゆるくとり、思ひ切り踏みきつて前傾をし、之に對する着陸の仕方を會得するのが得策だらうと思ひます。

これでスタートから着陸まで終りましたが、着陸が終つたからと云つて、ほんやりしてると折角結んだ實もむしり取られる様になります。それでテレマーク姿勢から直滑降に移る時は身体を前方に起す様に徐々に行へば安全だらうと思ひます、そして又斜面と平面との繋へ行つたら、少し

く重心を下けこのショックを抜く様にします。

以上により練習のあらまは終りました。それで練習が終りましたならば、精神も肉体も相當に疲れてをりますが必ず着陸斜面やジャンツエの端、アブローチを均しスキーでステツプをきざみつけておく事を御互ひに忘れてはならないと思ひます。

そこで今迄ジャムプをする人は如何にしたならば美しく飛べるかと云ふ考へを皆んなもつてをりました、亦事實そのでなければなりません、がこゝに面白い事は廣田さんがもつて來られた外國のジャムプの寫眞を見ますと、シユロイツの寫眞には美しいジャムプとか美しき身体の保持とか書いてありますが、ジャムプの王國たるノルウェーホルメンコルンの大會の各ジャムバーの寫眞を見ますと、美しきジャムプ美しき身体の保持と云ふ上に、更に大膽な前傾姿勢力強いジャムプと云ふ言葉が加へられてあります。之を見しても小じんまりとした感じのするジャムプは既に過ぎ去り、現今は美しく力強く更に大膽なジャムプを要求してゐるものではないかと思ひます。

(Ⅱ) 複合競技の要領に就いて

昨日はスキージャムピングの要領に就いて簡單ながら述べましたが、本日は現今日本に於いて漸次盛んになりつゝある複合競技の要領に就いてお話し申したいと思ひます。

之の競技は従來のジャムブやラングラウフの如く、日本に於いて各々相當の歴史を持つてゐるわけではありません。まだほんの生れたばかりのものです。勿論私としてもこの競技を始めてから日も淺く、従つて之に關する適切なる練習法とか競技の要領などと云ふ、まとまつた事のある可き筈がありません。只諸兄よりもほんの少しばかり早くこの競技にとりかゝつた關係上、今迄に行つて來た経過を潜越ながら御話する次第です。

従來スキージャムピングはスキー術の華であり、奥儀であるを考へられておりましたが、之の複合競技が現はれてからはこれに優勝して、始めてスキー術の奥儀を許されたといはれても良い程になりました。吾々の憧れの的であるノルウェーのホルメンコルンの大會でもこの競技に優勝した者には名譽あるコングスポーカル(皇帝牌)を賜はりシ

ーコング(スキーの王様)といはれてゐるそうです。

然らばこの競技は如何なるものであるかと云ひますと、其の名稱の如くジャムブとデイスタンスレースの二つの競技を行つて、其の各々の競技に就いて採點をし、この二の得點の總計が最高のもを以つて優勝者と成すものであります。この採點の方法はジャムブの方は従來のジャムブ規定に従ひます、デイスタンスレースの方の採點法は所要の距離を最短時間で走つたものを最高點二〇點満點とし四分の一分遅れる毎に、八分の一を滿點から減じて行くのです。今この例を示しますとA B二人の競技者がありました。其の競技に於ける後點は次の如しとします。

Sprung. { A.....16.82.
 B.....17.16.

Langlauf. A.....(最も短時間で) 59' 30''
 B.....1' 00' 15''

としますとAは最短時間で最高二〇點Bはそれよりも四五秒おくれたので、點數になほすと〇・三七五丈減ぜられ従つてBのデイスタンスレースの得點は一九、六二五となります。

以上により兩競技者の合計得點は

A.....20+16.82=36.82.

B.....19.625+17.16=36.785.

結果からしてAの方は○●○三五丈得點に於いて勝れてゐるわけに従つてAが優勝と云ふ事になります。

探點の方法は以上述べた如くですが、デイスタンスレースに於いて最短時間より四〇分遅れたものは得點に於いてゼロで此れ以下はジャムプに出る資格が與へられず、ジャムプに全部轉倒したものは例へデイスタンスレースに於いて優秀であつても本競技に失格する事になります。

それで複合競技なるものゝあらまははお解りになつたと思ひますが今度は如何にしたならばこの競技に出場して良好な成績があげられるか、更に進んでは優勝出来るかと言ひますと、シーズン外に他の種々なる運動或は山野の拔渉により体力を練る事は勿論の事です、さしあたり必要な事は兩方に秀でゝをれば勿論結構ですが、自分はジャムプの方が幾分優れてゐるとか、デスタンスレースの方がジャムプより幾分得意だとか云ふ風に、自己の長所をつかみ短所を知つて、之を基礎として自己の体力を考へ、亦時間を

上手に利用した練習計畫を立てる事が必要です。シーズンの短い割に仕合のおし迫つてゐる現在の狀況に於いては、試合前二日の休日をとつた、二週間のトレーニングの日程を決めておけば先づ良いと思ひます。

獨逸の *Der Moderne Ski-Sports* に出てをります合理的な練習計畫としては六〇日の表をつくつてをります。この細目を述べる事は今は省きます、がとにかく始めは緩に、徐々に急に移つて行く様な練習の仕方です。

内容は、ジャムプ、デイスタンスレース、一般スキー術の練習をば巧妙に織り交ぜてをりますが、六〇日間のトレーニングは到底吾々には不可能な事です、それでこの良い所丈をぬいて二週間位に、短縮し作り改へた次第です。

この二週間を三分し、始めの三分の一は山へ行つて新雪を味ひ、そこでボーゲンとか種々なるテクニクを練習しスキーに對する身體の適合をよくし、滑降技術の練習をいたします、勿論之れも毎日ではありません、この間に一五分位の平地滑走をやり、だら／＼の登りもやり、専ら走法の研究と、走法の固定に氣をつけます。更に、私共がよく云つてをるゴブと稱するスロープの途中の障害で、トレー

クホップの練習をやりませう。

この中でも平地滑走は走る人にとつては、大變重要な事で、何しろ長い間走つてゐる中には絶へず疲れが出て來ます。そして疲勞が出て來ると共に體がくずれ、走法が悪くなりそうになるとつまらない力を費やして大切なスピードを鈍らす様になりますから、形ばかりにとらはれるのはいやだなどと決してあなどつてはならない事です。

中の三分の一はデイスタンスレースとジャムプを一番猛烈にやらうと思つてをります。レースの方は午前中二〇分一三五分位システムのコース、即ち登り下り、平地各々を有する様なコースを自分で適宜選定してこの間猛烈にやります、そして私丈が出来るのかも知れませんが、それがすんだら一時間ばかりの午睡をとることをやりました。人に依りませんと午後後に練習する場合に午睡をとるのは不可ないと云ひますが、私にとつては有効でありました。

午後のジャムプをやりませうが之も昨日お話しした要領で一五米位飛ぶシャンツエを七八本飛びませう。

こゝやつてゐる中に、残りの三分の一は相當に疲れて參りますが、此の間にはデイスタンスレースの方に重點を置

き、始めの一日は手稻山位の山へ行つて新雪を味ひ、氣分の轉換を行ひませう。この間のジャムプの練習は試合が近づいた事ですから、數も一日に二三本に止めて常に練習から歸る時には、もう少し飛びたいと云ふ様な所で止めて歸つて來る様にします。

デイスタンスレースの方は一日日を選んで所要の距離コースの状態を假定して、ゆつくりと一廻りし、その残りは狀況を各自求めて、登りとか下りとか平地を、少し強く練習いたしまして、試合の前二日はびつたりとどんな事があつても休養します。この二日の休日をとると云ふ事は思ひ切つてなかくとれないものですが是非休まれん事を希望いたします、この最後の練習間に非常につかれてゐたならばジャムプ等しない方がよいと思ひませう、若ししたければ只ジャムプのスキー杖をつけて、軽く歩く位がよいと思ひませう。強い練習は何時でも出來ませうが、思ひ切つた休養は一寸出來難いものです、特にコンバインドレースをやるものにとつての、唯一の恐るべき事はオーバーワーク(overwork)です。

私が本年ヘルセット中尉に注意された事があります。そ

これは三角山のシャンツエで七八本も飛んで、夕方歸つて直ぐラングラウフの練習に出かけた所を二三回會つたのです。そうするとヘルセツト中尉が云ふには、それはあまり練習が過ぎる、デイスタンスの練習も一週間に二三回やればよい、ジャムブも一五米位のを一日四五本とせばよいし、之も毎日飛ばなくともよいと申してをりましたが、其の時はインターカレッジで、責任観などを大いに感じてゐたものですから、毛唐だからそんな事をいへるんだなどと考へて、そのまゝつけてをりましたが、案の定あまり良い結果にはなりませんでしたが、つまらない事ですが御參考にまで申します。

いよ／＼試合になります。何んの競技でも氣を落した駄目ですが、特にこの競技にはあきらめなどと云ふ事は絶対に禁じなければならぬと思ひます。先程申しました通りデイスタンスに少し成績が悪るかつたが、次のジャムブがあるから大丈夫だと云ふ様な、潑刺たる戰鬪意識ねばりが必要であると思ひます。こん風に考へて競技に出ますと少し位第一日に成績が悪くとも、第二日の其の時にと云ふ考へがむら／＼と起つてくるもので、この點が亦複合競

技の興味のある所だと思ひます。

さて、こゝに *Tandem* から入つた複合競技が有利であるか、ジャムバーから入つた複合競技に強味があるかと云ふ事になります。こんな事は區別して比較すべきではありませんが、今迄吾國に於いてはジャムブとレースをやる人と云ふ風に、大体二派に分れてをりましたが、この競技の出現によつて二派からそれぞれ、これに加はる様になつて來たので、自然こう云ふ比較をする様になるのです。

何にしろ *Skating* の根本と云ふものは、直滑降とステムメンです。この二つが色々飾られて種々なるシューングが行はれ、又種々の競技も行はれるのです。それでデイスタンスに強い人は勿論一般スキー術に秀でてゐるものです。そこで其の人がジャムブを練習した場合、進歩上達は容易だと考へられる事は可能です。そして競技の得點の確實さから云ふと、レースはジャムブよりも其の確實さが多いのです。そうなると勢ひレースから入つた方が有利に思はれます。そして亦世界一流のコンビニールテを見ましても皆んなラングラウフに於いて確實に良い得點をなし、ジャムブは安全に之を行ふ様な人が多い様です。

それで今迄レースをやつてゐた人で、この競技はやりた
いんだがジャムブがどうもと云ふ人が多い様ですが、こん
な考へはどしく捨てよ、この競技をおやりになる事をお
すゝめいたします。

現在吾々の憧れの的であるホルメンコルンの大會に於い

ては單獨なジャムブ競技はなく、飛ぶ者は必ず所要の距離
丈を走つてこななければならない様になつてゐるそうです。
これによつてもこの競技が如何に重要視されて如何に興味
深いものであるかとお解りと思ひます。

(札幌放送局に於て放送)

北海道に於ける普通の雪崩に就いて

宇 都 宮 高

スキー登山に於て常に念頭に置かなければならない事は
吹雪、寒氣、雪崩であるが其の中特に注意を要するものは
寒氣と此の雪崩であらう。歐洲に於てスキー事件の七割は
雪崩に依ると云ふ事實を見ても如何に此の危険が大なるか
を知る。一方吾國に於ても登山家の雪崩遭難事件例へば針
の木に於ける早稲田山岳部の遭難、或は吾々の頭腦に未だ
に刻み込まれたる劍澤小屋遭難等數々の實例がある。

此の如く雪崩は恐ろしい物であるが此等の不幸は其の大
部分決して偶然の物でなく豫め知り得べき事情にあつて注
意を拂へば避けることの出来るものである。特に北海道に
最も普通に經驗する表層崩(板狀雪崩の一種)及底雪崩は
殆んど一定の形式の場所に生ずるものであつてそれに出會
して遭難するのは甚だヘマのことである。

此に書かうとする問題に就いて考察を要することは積雪

斜面への方向並にそれに及す力學的問題、或は物理的性質及氣象學的因子に依る雪質の變化が常に明瞭に意識されて居なければならぬことである。然しながら未だ北海道の高山地の氣象に關しての調査も研究も不充分で依頼するだけのものがなく、勢ひ外國に於ける調査並に研究に依頼する有様なり。内地に於ても勿論同一條件のもとにあることと思ふ、それが爲め數種の著書を參考として述べて見たい而して北海道の雪崩を書する前に一應緒言として雪の性質並に雪崩の種類等に就いて述べん。

雪の性質

今雪の比重、摩擦、滑動性、積雪の溫度に就いて考へれば。

a 比重

積雪の比重は溫度及壓力等に依り異なるものなるが大體 Rulenz 氏の示したものをあけてみると。

雪質	比重	重量
乾燥せる粉雪	0.06	60 — 80 $\frac{m^3}{kg}$
落ち付いた雪	0.20	200 以上
濕潤なる雪	0.80	800

此の0.06位の比重の粉雪は極く寒い場合に見られるものにして崩れとなる種類所謂粉雪崩れ (Sauflamme) となるものにして北海道では時々小さいものがある。且つこれは險阻な斜面多くは岩石地に見られる。ある人の話に依ると針の木の雪崩は此の種のものと同じだがどうも本當とはうなづかれない。

摩擦と滑動性

雪崩が斜面に於ける摩擦及滑動性に依り起ることは當然のことにして又此の研究に當つて最も重要な問題である。

積雪が斜面に靜止して居るのは第一は雪全体と下層地との摩擦の爲めにして、即ち下層地の性質關係に依りて此の摩擦が異つて來る。ブツシユの多い斜面又は凹凸の甚しき面等は摩擦が大で、ラーゼンプラットや岩石の滑面を有する個所或は凍雪せる面は非常に摩擦少ないものである。

Naimondy 氏に依ると平たい石や、芝、硬雪では僅かの傾斜でも滑り出し、此の限界は自由に變化されるが、極限度としては摩擦度數0.4位では二十四度、硬雪面になると二十一度内外で崩れが始まると稱してゐる。又雪が融解した積層雪面間に働く時には摩擦減少し此の融解水は滑動劑の

役目をなすものである。

次に雪の各相互間の内部摩擦に就いて考へると、粉雪（比重〇・〇六位）の間は非常に相互摩擦及凝集力は小にして各自の動力は大であり、〇・二以上の雪質は内部摩擦は増加して来るが下層地又は積雪間は濕性の増加と共に一種の融水の滑劑を生じ滑動力を増大する。故に粉雪は粉雪崩を起し易く、濕性の雪は表層崩れ又は底雪崩れを引き起し易いのである。

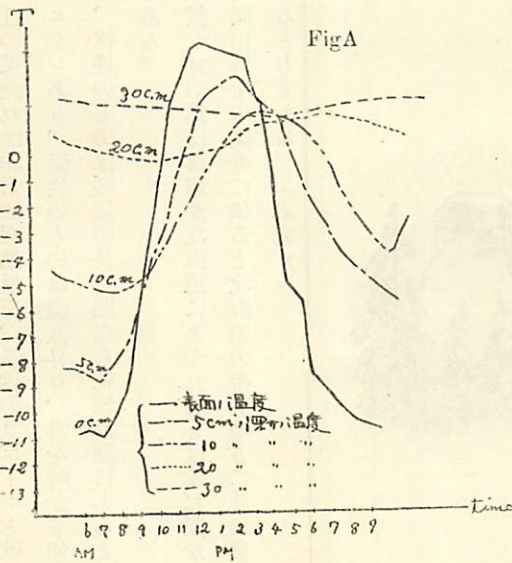
c 積雪と温度

光線の反射作用に依りて積雪の表面と下層との温度は同一でなく常に表面の温度は日中の温度とその行程を同じくし、最下層面は殆んど同一温度を呈してゐる。

阿部幸次郎氏の測定された結果圖を此處に示すと次の通りである。(FigA)

此れを見ると表面の最高温度は日射の一番強い時なりしも深さの進むに従つて最高温も遅れ五糎では午後三時、十糎では午後四時、而も深さ二十糎より深くなると温度の變化次第に減少し三十糎の所では一晝夜僅かに〇・五―〇・七度しか變化しない。又特に注意を要することは深さの進む

に従ひ平均温度の上昇である。今表面が非常に低い温度を示したにしても積雪大なるときは深い所では豫想以上の高温度を呈して下部から融解し、終には底雪崩を起すことも



ある、此れは北海道の春先に往々見る現象である。

d 日光の作用と氣温の影響

雪面に日光直射されると温度昇り融解し始め、それが時間経過と共に内部に滲透する。この變化は云ふまでもなく

日射時間の長い南面に一番甚しく、従つて北斜面は一番少し。又朝又は夕方は斜面の急なる程餘計に日射を受け、北海道の西又は南面の急斜面には此の例を見る。然し日中は比較的緩斜面が直射され雪質の移動も此れに應ずる。次に今まで日射の爲めに融解された表面が氣温の低下に依りて凍結し、濕潤性の及んだ深さの關係に依り厚薄の氷の外皮を生ずる、此れは氣温が零度以下なるときはそのまゝの状態を呈し、雪面が零度以上になると又元の濕潤性の雪となる。此の變化を幾度も繰り返すと所謂ザラメの結晶雪となる。凍結せる斯の如き表面に新に降雪起りし場合には表層雪崩れを生ずる。

e 風

風の及ぼす影響は可成り大きい。Arnold, Lunn 氏の Windlab なる雪崩れは此の風の爲めに生ずるものであり且つ北海道に多く見る雪崩れの一種板狀雪崩はこれである。これはリーザイテンに多く見るものにして雪庇、即ち風下の斜面に風の爲めに粉雪が多量に積る、此の場合の粉雪は密度比較的大であつて、所謂吹きたまりなる雪質を有し下層の積雪と混じ難きものあり。其れ故に板狀雪崩を引き

起す。風の中に特に注意を要するのは Föhn である、A Lunn 氏はフェーンに就いて左の如く云つてゐる。

Föhn is caused by the air on the southern slopes of a mountainous range becoming superheated by the sun.

且つ又此れは非常は暖熱風で、濕性のフェーンと乾性のフェーンあり、濕性のものは溫度昇り、雪を解かす傾向あり、乾性のものは暖氣の長時間なる乾燥状態にあると稱してゐる。

然し此の爲に雪崩が北海道にあつたことは未だ聞かない。只岡田博士の調査に依ると北海道の帯廣地方に此の發生があるとしてある。(未完)



獨逸に於けるアマチュア・スキー

酒 井 隆 吉

唯今から獨逸で見聞致しましたスキーのアマチュア、即ちスキーファンの事に就て少し計り御話致します。それで私はアマチュアの中でのアマチュアであります。スキーに就ての専門的の智識とか、技術方面に關する事は夫々、斯道に造詣の深い方々が既に御話になつたり、又はからも御話になる事と思ひますので、私はたゞ獨逸の人が一般に老若男女の區別なく、如何に雪を享樂して居るかと思ふ實況を簡單に御話致し度いと思ひます。

私は伯林に滞在致して居りましたが、愈々ウィンタースポーツの季節となりますと、日本も同様ですが運動具店とか百貨店のショーウィンドウにスキー、スケート及びスキー服やスエーター等のウィンタースポーツ用の道具

が陳列され、又鐵道案内所等では夫々スキー地の美しい大きな寫眞やポスターを並べ、行き交ふ人々の歩を止めさすのであります。而して氣の利いたウィンタースポーツ地の案内のパンフレットや小冊子を無代で呉れます。此等を見ますと美しいスキー地の寫眞や交通の便、宿屋の設備、其の地に行はれるウィンタースポーツの競技プログラム、等の事が要領よく記してあります。又毎年獨逸の鐵道省からは「獨逸の冬」と題する小冊子を發行して、ウィンタースポーツを盛んに宣傳致して居ります。又毎夜ラヂオで各スキー地方の雪の狀況を放送して來ます。私は昨年暮から今年の春にかけての季節に伯林のすぐ郊外で「グルクネーワルド」と稱する、札幌で云へば圓山公園と云ふ様な森で、

町の人々が日曜日等に一寸出掛る處、次に伯林から汽車で二時間ばかりかゝる「フライエンワルド」と云ふ温泉地で土曜日から日曜日にかけて一泊位の豫定で行く處、それから汽車で約五時間ばかりかゝる「クルムフューベル」と云ふスキー地、とに行つて見ました。それで是から主として「クルムフューベル」で見聞致しました事に就て述べ度いと思ひます。

此のスキー地は世界大戦後に新らしく興つたチエツコスロバキア國と獨逸との境に近いリーゼンゲベルゲと云ふ七百米内外二千三百尺餘の山地の中にある有名なウインタースポーツ地なのであります。大きな宿屋が六つ其の他小さい下宿式の宿屋は六十もあり、其の他レストラントや喫茶店、スキー用具店、御土産屋、等の店もあり、ウインタースポーツの方の施設としては「シャントエ」が大小二つあ大きな方は四五十米位は樂にとべそうなのでエレベーターの設備もあります。曾て獨逸のジャンパーの選手權競技が行はれた事があつたのです。その他スケートリンク橇道又日本では未だ行はれぬませぬが「ボツブ」と云ふ、一寸橇に似たもので四人位乗つて競走するスポーツの爲の道等が出来て居ります。此處へは某大學の教授と二人で出掛け

たのですが、私共の泊りました宿屋は小さい下宿式の宿屋で間數も十位しか無く、大變氣易い家で中々主人夫婦も親切であり、宿賃も三食附で一日三圓五十錢計りですから高い方ではありません。

一般スキー地には夫々スキー用の委しい其地方の地圖が出来て居ります。それを見ますと二三時間位で滑つて來れる處、或は半日位のコース又は一日がゝりの處とか、一泊も二泊もして山方面に入るコースとか、明瞭に記してあり且つホテル、レストラント、小舎、道標等の細い點も標識してありますから大變便利で、之さへあれば自分の思ふ様に計畫して滑つて歩けるのであります。又宿屋のすぐ近くの斜面にはスキー學校があり初心者に講習等をして居ります。此のスキー場の後には「シュネーコツペー」と云ふ海拔一千六百米ばかりの一寸手稻山位の山がありまして、私も登りましたが橇道もあれば歩いて行ける近道もあるし、無論スキーでも登れるのです。又處々に立派な小舎がありまして一寸した食事も取れますし宿る事も出来るのですからどんな人でも山の氣分を味ふ事が出来るのです、私共も登は歩いて降りにはスキーを履いて滑つて下りました。麓の方

は美しい樅の林の間を縫つて立派な道がついて居りますが、上の方になると雪に埋れた樅の木の散在する一大雪原になり、實に壯大な景色となります。

此の邊は吹雪でもやつて來ると道が分らなくなるので、四五間隔に雪上に二間位出て居る棒が道標として長く續いて居ります、此も前申した地圖に明に記してあります、此の雪原を過ぎると急坂となつて頂上が聳えて居るのです。その麓に立派な小舎が二つあつて相對して居りますが、その一つは獨逸側の小舎で他の一つはチエツコロスロバキア側の小舎です。即ち此の山は獨逸とチエツコロスロバキア國との國境に跨つて居るのですから、此の邊に參りますと境界線の上を滑つて行く事になるので、我々もうっかりすると御隣の國にすべり込んで仕舞ふのです。この獨逸側の小舎で一休みしましたが中は中々大きく、如何にも山の氣分を現はす様な裝飾のしてある大食堂はスキ一の男女で、一杯で山の上とは思はれぬ様な温い御馳走も食べられるし、又五人許りからなる樂隊が音樂を奏して我々共を慰めて呉れます。

窓を通して見る景色は凄い吹雪ですのに小舎の中は此の有様です、又百人位は充分二階に宿れる設備があります。

此處より頂上までは電光形に道があるのですが風當りが強いので雪が吹きとばされ、つるつるして居るので私共は靴に迂り止めの金具をつけて登りました。然しこんな處を上からスキーを履いて迂つて來た青年に會ひましたが其の技術の巧妙と勇敢なのに驚きました。頂上にも殆んど雪に埋もれた小舎があり、雪のトルネルをくゞつて入口に達し、此處で熱い紅茶を飲んだ時は今でも忘れられません。

降りにはスキーを履いて滑りました。

上手の人ならば上から下まで休む必要なく滑り通して降りられます。そのスキー道も上手な人が迂る道と下手な人が滑る道とがありますから、自分の技倆に應じて適宜な方を選べばよいのです。勿論我々は迂回した緩傾斜の道を滑つたのですが、數へきれない程ひつくりかへりました、初めは一々數へて居たのですが、下から登つて來る連中にも度々會ひましたが、必ず私共にシーハイルと云ふ挨拶をして行きます。

丁度この時我々と技倆が伯仲して居るので相前後して降りた女の一隊がありました。三十五六の婦人が二十前後の娘さんを連れて居るのですが、或る急なスロープに來ます

と立ち止つて我々に先に下れと云ひますから、西洋ではいつも女が先に行くものだと言ひますと、此云ふ場合は特別だと云つて頑張ります。いやそんな事はないと論判して居る中に一人の娘さんが勇敢に滑り出しましたが、果して大變な勢でひつくりかへりました。雪達磨の様になつて顔を上げ私共を下から招いて居ます、實に無邪氣なものです。

斯ういふ處に來まして特に目につく事は相當年輩の男や女が來て居る事です。日本でも近頃非常にスキーが一般に普及されて來た様ですが、現今の處主として學生を中心とする若い人達が多くて中年以上の人は少ない様です、ところが獨逸の方では中々此の年寄連中が活躍して居るのを見かけます。例へば日本なら御隠居さんとも呼ばれそうな白髮頭の老夫婦が互に助け合ひ乍ら、ゆつくりと森の中の雪路を滑つて行き、疲れると「レストラント」に入つて熱い紅茶等飲みながら、周圍でわい／＼騒いで居る若い連中の中にこして眺めて居る。そうかと思ふと禿頭の御爺さんが橇に乗つて大聲をあげて滑つて來て、雪の中にひつくり返つて子供達に引張り起されて居ると云ふ狀況で、まるで自分の年を忘れて嬉々として雪を楽しんで居ります。

又新婚の若夫婦といふ様な人もあれば一家總出といふ一團もある、女でも男と同じ様なスキー服に身を固め勇敢に滑て居るので、一寸見た位では男か女か判断のつかぬ様なものもあり、又身体にびつたり合つた眞赤なスエーターに揃の帽子襟巻をして、姿の良い若い婦人が日光に輝いて居る雪を蹴立て、わつと歡聲をあげ乍ら滑降をして來る處を見ますと實に心持よく所謂健康美に打たれるのであります。而して斯ふ云ふ御連中にはスキーの技術方面から云ふと、餘り上手なのは少なく丁度我々と下手さ加減がよく似て居るので、愈々吾人の意を強うしたのであります。中には滑つて居るよりカフェーに入つて茶を飲んでる方の時間が長いのではないかと思ふ連中もあり、又小高い眺望のよい場所で日向ほつこして居る御仲間も少くない。晝食時になるとどのレストラントも休憩小屋も満員の盛況で、老若男女の別なく雪焼けした眞黒い顔をして、御互に百年の知己の如く打解けて辨當を開いたり、林檎を丸嚙りしたり歌をうたつたりして大賑ひです。私共も自分の顔色が變つて居る事等は忘れて遂其の雰圍氣の中に引きずり込まれ、實に親しい愉快な心持ちに酔つて仕舞ふのであります。こゝ

いふ気分はかういふ所でなければ到底味ふ事の出来ない有
難いものではなからうかと思ひます。又夜になりますと各
宿屋では一家族の如く滞在客が一所になつて、夕食後音楽
を聞いたりトランプを弄んだり、又大きなホテルではダン
スが催されて誰彼の區別なく踊り廻るのであります。又時
には假装會音樂會等が催されて誰れでも勝手に入場出来る
のです。こんな有様ですから獨逸のスキー場集つて来る
人々は單にスキーで滑る計りが目的でなく、前申した様に
新鮮な空気を吸ひ且つ日光浴をしたり、雪道を散歩したり
山の氣分を味つたり、夜は夜でダンスとか音樂に打興じて
思ふ存分に身心の保養をやるのであります。

即ち此の間は世俗の煩らはしい羈絆を脱して、全く自然
に還つて雪の様な清い明い氣持ちになつて命の洗濯をやり
心身共に更生の勢を以て又己が仕事に全力を盡さんとする
のではなからうかと思はれます。かういふスポーツは單に
贅澤な遊びではなく、人の生活上必要な物と考へてもよい
のでは無いかと思ひます。どうも日本では中年以上になり
ますと碁や將棋等の室内遊戯はやりませんが、郊外のスポー
ツになりますとよい年をして年寄の冷水等と云つて引籠り

勝ちになります。成程藥だからと云ふて無暗に飲めば却て
害になりますけれど、何も若い人のやる通りやらなくても
体力相當に過激に涉らざる運動をやればよいので年寄には
年寄相當のスキーの楽しみ方があるのであります。重いリ
ュクサツクを擔つて吹雪を衝いて高い山を登つたり、あの
勇壯なジャンプ等は青年のやる事で、我々中老組は力相當
の丘や森の中を滑つて、疲れれば休んで熱いコーヒでも飲
むと云ふ風でも充分雪を享樂し得られるのと思ひます。

雪の點から云へば北海道等は實に恵まれて居りまして、殊
に札幌小樽等は一寸郊外に出れば獨逸に負けないスキーの
極樂境があるのでありますから、是に相當の設備が出来さ
へすれば日本一のスキー場となり、だん／＼澤山の人が集
つて来る事と思ひます。よく内地の人が半年も雪に埋つて
嘸ぞつまらないだらうと云ひますが、此等の人々に獨逸の
スキー場の實況を見せてやり度いものだと思ひます。

日本も近年急にスキーが一般化されてきて、その設備もだ
ん／＼完成に近づきつゝある事は結構な事と思ひますが、
これを外國と比較致しますとまだ可なり差がある様です。
「スキー」とか「ビンディング」とか「ワックス類」とかは

相當に研究もされ、いろいろの舶來品も輸入されて居りますし、又國産品でもだん／＼よいものが出来る様になりつゝありますので、獨りで珍らしいと思つたものも既にこちらで使用されて居る様な有様です。

これを要しますに目下の處交通の便とスキーの爲めの宿屋の完備したものが必要かと思ひます。折角のスキー場もその方面の設備が無い爲め、中年以上の人とか女子供とかの体力の弱いものがスキーを楽しむのに不便を感じるのがあります。

其故スキーホテル、スキー小舎、休憩所等の設備の完成と共に、老若男女の別なく充分に雪を享樂する様になる事が体育の上からも、又精神上からも非常に結構なことだと思ひます。(札幌放送局に於て放送)

◆寄贈並に新着圖書雜誌

◆高畑棟材著「山を行く」

◆スキー年鑑 1930-1931

◆全日本スキー聯盟規定 1930-1931

◆旅 第八卷第一號及第二號

◆アルピニズム

創刊號

日本スキー聯盟

日本スキー聯盟

◆ベテスツリアン 第二百二十八號 神戸徒走會

◆アルカウ趣味 第十八年第一號 日本アルカウ會

◆會報 三 日本山岳會

◆山と旅 新年號

◆書物春秋 書物春秋會

◆Ski Notes & Queries No. 43 The Ski Club of Great Britain

◆Lake Placid Club Notes Nr. 211. Lake Placid Club

◆Ski News, Vol. 1 No. 3 The National Ski Association of America.

◆第六號目次

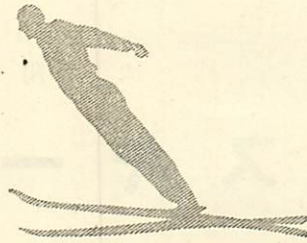
一、瑞西山岳會の登山小屋 グスターフ・クルツク著 山崎 春 雄 譯

芽室岳 坂 本 直 行

第八回北海道スキー選手權大會に就て 宮 下 利 三

一、北海道普通の雪崩に就て 宇 都 宮 高

一日に發行の第五號が大變遅れたことをお詫び致します



ススキヤジビムガン

廣田戸七郎著

山とスキの會刊行

本書はスキー競技に於て最も重要なスキージヤムプの一切を解説し、且つ國際スキー競技會に於けるジヤムプ競技の状況を詳説してあります。

四六判

二百四十頁
別刷寫眞版 三十二葉
挿入圖版 四十餘圖

定價 金壹圓五拾錢

送料 拾貳錢

御希望の方は振替口座小樽八四九五番札幌市
北二條西十三丁目一番地「山と雲の會」宛に
御申込と同時に御振込下さい。

太 陽 印

ス キ ー 一 口 一

發 賣 元

雪 山 莊

札幌市北二條西十三丁目



新界をリードする

山 印 ス キ ー

札幌市南大通西三丁目

ヤ マ 商 會

電話 1646

昔つてツバメ印スキー中野商店にスキー部創設以來専任して
居りました。中野商店同様一層の御引立を御願申上ます

◆「スキー」を研究せられる人、登山に興味を
持たれる方が一人でも多くお読み下さることを
御願ひいたします。

◆「山岳」と「スキー」に関する御寄稿と寫眞
の御惠送をお願ひします。

原稿紙は御申越次第お送り致します。

◆原稿は、。を一字とし、行を更めるときは一
字下けること。

定 價

一 部 金 參 拾 錢
六 部 金 一 圓 八 十 錢
十二部 金 參 圓 六 十 錢

*前金御申込か、現金でなければお送りいた
しません。

*御送金はなるべく振替にてお願致します。

昭和六年二月廿七日印刷
昭和六年三月一日發行 (毎月一回一日發行)

編輯者 長 野 寛

印刷兼 發行 者 長 野 寛

北海道札幌市北一條西二丁目

印刷所 札幌印刷株式會社

北海道札幌市北二條西十三丁目

發行所 山と雪の會

振替口座水樽八四九五番

昭和六年二月廿七日

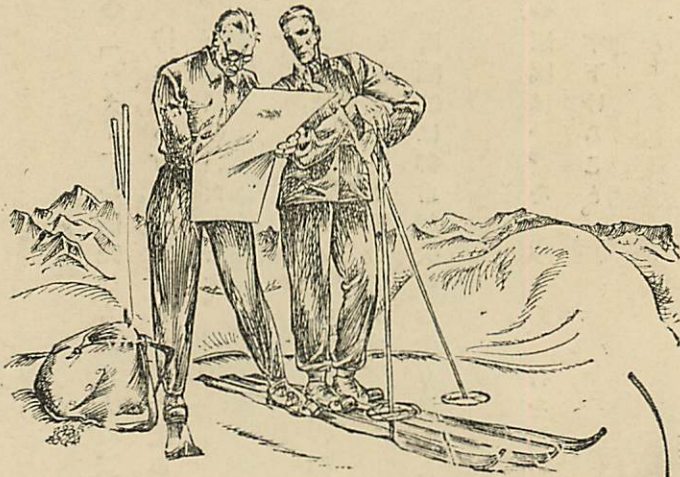
印刷納本
發行

(毎月一回一日發行)

山と雪

第五號

定價金三十錢



アールベルグ・スキー及び冬山の道具！
 (純正ヒッコリー材・ロックバーチ材メーフル材)
 ビッケル、EDELWEISS印
 (鋼鐵手打製 24.27 $\frac{1}{2}$ ・30.33 $\frac{1}{2}$ cm 保証付)
 ルックサック (スイス製布地、絶對防水)
 スタイガセン (鋼鐵手打製八本瓜其他)
 燃料META及びアルミ炊事具各種
 羽毛製シュラフサック及び冬期露營用具

Artberg-Ski



Hannes Schneider
 (商標登録)

三越・伊東屋・白木・野澤屋

合名會社

美満津商店

東京・本郷・赤門前